

研究結果報告書

研究結果

本研究は、北京大学大学院日本語 MTI コースの一期生（2012 年度入学）の 9 月入学を境目にして、「前半」と「後半」に分けて実施した。

研究の前半は、MTI コースの開講に向けて、訪問調査などに基づく通訳教育のコンセプトの模索と確立、カリキュラムの開発と作成を主に実施した。具体的な内容は以下のとおり。

- ① 大学院レベルで日中通訳のコースを持つ複数の大学（中国国内では北京、天津、大連地区の各大学、日本は東京の杏林大学）に対し訪問調査を実施した結果、多くの貴重な関連情報を得ることができた。特に 2012 年 8 月、日本初の通訳者大学院コースを持ち、日本の大学で唯一日中同時通訳マスタープログラムを持つ杏林大学を訪問した。松田博青理事長を表敬訪問した後、日本における日中通訳教育の第一人者である同大学国際協力研究科の塚本慶一教授を訪ね、同教授から通訳教育の理念からカリキュラムの設定まで多岐にわたるテーマで貴重なアドバイスや数多くのご教示を受け、ご指導して頂いた。
- ② 中国国内ばかりでなく台湾や日本で、通訳教育に関する著書・書籍や学会誌論文を収集し、カリキュラムや教授法など必要な内容を抽出・分類し、分析した。
- ③ ①と②で調査し、分析した研究成果に基づき、責任担当者の一人として、北京大学 MTI コースのカリキュラム（試案と完成案）を作成した。更には 2012 年 6 月、MTI の教育理念やカリキュラムの開発・設計などに関する内容を取り纏め、学会で発表した。

研究の後半は、前半の成果を踏まえつつ、イノベーティブな教授法の研究開発に注力し、MTI 教育の現場で実践した。

- ① 2012 年 9 月開講の北京大学日本語 MTI 通訳コースでは、「通訳基礎」、「逐次通訳」（来学期は「同時通訳」担当予定）などのコア授業を担当した。これらの授業を通して考案した新たな教授法を実践するなど、目に見える形で研究成果を上げることができた。また、アンケート調査などを通して、学生達からの貴重な意見や情報をフィードバックすることができた。こうした成果を踏まえ、長期的な視点に立って更に改善を重ねていった。
- ② こうした教授法の研究・開発を中心とする内容を取り纏め、学会で発表した。さらに、二度の学会発表の内容を纏めて論文に書き上げた。この論文は現在、投稿中である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

- ① 「日本語教育の新しい試みー日本語MTIについて」・丁莉・2012年兩岸外語教育研討会・2012年6月14日・台湾淡江大学)
- ②「北京大学日本語MTIカリキュラムの設計と教授法の模索」・丁莉・2013年兩岸外語教育研討会・2013年5月31日・延辺大学)

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

「北京大学日本語MTIにおけるカリキュラムの設計と教授法の開発」（現在、投稿中）

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）